学校番号	413

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	言語文化	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	探求　言語文化　改訂版（桐原書店）						
副教材等	よむナビ古典三訂版（いいずな書店） 体系古典文法十訂版・準拠ノート（数研出版） 必携頻出　古文単語３４０＋漢文語彙２１０　ダブルスタイル５５０（尚文出版） プレミアムカラー国語便覧・準拠ノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○この科目では、古文・漢文および現代文の文学的な文章（小説や詩歌など）を題材に、日本語と日本文化について学習します。

［古文・漢文］

古文：単なる「昔の文章」ととらえるのではなく、やがて今日の日本語に変化してゆく古い日本語のすがたと、そこから生まれた日本の文化について学習します。

漢文：中国語という外国語ではなく、漢字や漢語などが日本語にとりいれられてゆく過程を学び、漢文からつくられた日本文化について学習します。

●音読をする。　●こまめに辞書を引いて、語彙を身につける。　●便覧などで古文常識を学ぶ。
●文法書などを活用して、文語文法や漢文の句法などを身につける。
●「なぜ？」を大切にして、現代語訳する力とともに文章を鑑賞する態度を育む。

［小説・詩歌など］

小説や詩歌などを題材に、他人の思いに共感できる豊かな感性を育てましょう。学習にあたっては、［古文・漢文］で述べたことに加えて、読書を習慣づけましょう。

［その他］

教科書・副読本を活用して、自学自習に努めましょう。定期考査や小テストで学習の成果を確認し、問題集は、定期的に提出を求めます。

2　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を生かした言語活動を通して、国語によって的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につける。そのために、

① 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を育む。
③ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
I	古文の基本的なきまりを学んで古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる面白さや人間描写を味わう。 ［教材］ 「宇治拾遺物語」『児のそら寝』	a：語彙を豊かにする。歴史的仮名遣いや古今異義語を中心に、文語のきまりを理解する。 b[読]：古典の文章に慣れるとともに作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c：説話を積極的に読み味わい、話のおもしろさを理解しようとしている	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	さまざまな時代の価値観や人々の思いについて自分の考えをまとめる。 ［教材］ 「ことばが運ぶ文化の記憶」	a：我が国の様々な言語表現において創造・継承されてきた言語について考えることで、培われてきた文化的価値を理解し、美意識を高める。 b[読]「ことばが運ぶ文化の記憶」について、作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、内容の解釈を深める。 c：各作品について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	音読を繰り返して古文に慣れるとともに、古語と現代語の違いを理解し、古文を読む基礎を学ぶ。 ［教材］ 「十訓抄」『大江山』	a：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しむ。 b[読]文章を読む際に把握すべき事柄を理解し、特に心情表現については叙述を基に読み取れるものを的確に捉える。 c：文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	話の中で和歌が果たす役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ［教材］「東下り」（伊勢物語）	a用言の活用や助動詞について、文語のきまりを理解する。 b[読][書]話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 c・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。学習課題に沿って異なるテクストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
Ⅱ	助動詞・助動詞など、古典文法の基礎を押さえながら、随筆の主題を理解し、時代背景や当時の価値観を読み取る。 ［教材］「徒然草」『奥山に猫またといふもの』	a：古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解し、古典固有のリズムや世界観に親しむ。 b[読]：文章の構成や展開、表現技法について優れている点だけでなく課題点も指摘し改善点を提案する。 c：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	わが国最初の日記文学を読んで、記録とは異なる日記文学を鑑賞する。 ［教材］ 「土佐日記」『門出（冒頭）』 『帰京』	a：語彙を豊かにする。助動詞を中心に、文語のきまりを理解する。 b[読]：女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。 c：文学としての日記を読み、執筆意図や作者の心情などについて積極的に理解しようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物

	漢文訓読の基本を理解し、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ［教材］ 故事成語「推敲」「漁夫之利」	a：訓読のきまりを理解する。現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 b[読][書]：作品の歴史的・文化的背景を理解して、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 c：故事成語の由来となった話を積極的に読む。便覧等も活用して、ものの見方・考え方を広げ、自分の表現に生かそうとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	二つの文章を比較して読み、それぞれの筆者の主張を読み取るとともに、日本の古典文学と桜との深い関わりについて理解する。 ［教材］ 「徒然草」『花は盛りに』 「玉勝間」『兼好法師が詞のあげつらひ』	a：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[読]作品や文章の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深めている。 c：教材について、文章に表現されている書き手の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	表現や技法（押韻や対句など）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々の感性の豊かさにふれる。 ［教材］ 漢詩　杜甫『絶句』 白居易『八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九』	a：漢詩のきまりを理解する。作品の歴史的・文化的背景を理解する。 b[読]：表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、作品に表れている古代中国の人々のものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
Ⅲ	合戦を主題とした文学作品を読み、そこに描かれた思想や人間のありようを知る。 ［教材］ 「平家物語」 『祇園精舎（冒頭）』 『木曾の最期』	a：語彙を豊かにする。助動詞・助詞を中心に、文語のきまりを理解する。 b[読]：軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉え、作品に表れている無常観や武士の生き方を捉え、内容を解釈し、鑑賞する。 c：作品に表れている無常観を読み取り、自分の考えを広げたり深めたりするとともに、表現や描写・文体の特色を理解しようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物
	日本人によって書かれた漢詩を読み、日本文学と漢詩の関わりについて理解を深める。 ［教材］日本の漢詩 菅原道真『読家書』 夏目漱石『無題』	a：我が国の言語文化の独自性を認識し、外国の文化の影響や受容による影響への理解を深めている b[読]：詩の内容を歴史的・文化的な複数の観点から捉えなおし、新たな発見や問いを立てることでさらに内容の解釈を深める。 c：詩に表現されている作者の人生観や、歴史や文化に対する価値観などを読み取り、内容の解釈を深めようとしている。	課題の提出 定期考査 小テスト	発問評価 指名音読 定期考査 課題の提出	授業態度 提出物

4　学習の活動

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　０　　）時間

・書くこと　…　（　　１０　　）時間

・読むこと　…　（　　６０　　）時間